

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は、真面目に取り組んでいる。基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている児童が多い。 ●身に付けた知識・技能を他教科や別の単元で生かしたり、日常生活の中で活用したりすることに課題がある。また、学年が上がるほど、学力差が大きい。語彙の習得についても、個人差が大きい。	・基礎的・基本的な力を確実に身に付け、様々な学習場面や生活で活用することができる。 ・語彙を増やすとともに、適切な言葉や漢字を使って、文章を読んだり書いたりすることができる。	・小テストやドリル学習などを行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・個に応じた指導・支援のあり方について共通理解を深め、協働を通して学力向上に努める。具体的には、TT指導の充実や効果的なタブレットの活用、具体物を操作するなどの体験的な活動等を取り入れる。 ・読書活動や新聞を活用した学習を取り入れ、語彙を増やし、適切に使用できるよう指導する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○文章中から正しい答えを見つけられる児童が多い。自分の考えや気持ちを自分の言葉で書いたり、発表したりする児童が増えてきた。 ●考えの根拠を明らかにし、筋道を立てて説明したり、友達の考えを受けて自分の考えを再構築したりする力に課題がある。	・既習事項をもとにして自分の考えをもち、根拠を明らかにしながら、筋道を立てて書いたり話したりすることができる。 ・自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、共通点や相違点を見出し、自分の考えを深めることができる。	・授業では、児童が考えを書いたり、交流したりする場を設定する。(書く活動を重視する) ・「聞き方・話し方ナビ」や思考ツール、考えを表現するための手引き等を活用し、自分の考えを相手意識をもって伝えたり、考えの根拠を明らかにしながら筋道を立てて話したりする力を伸ばす。 ・スモールステップで指導し、自信をもって意見を言ったり説明をしたりすることができるようにする。 ・ペアやグループ等の学習形態を工夫したり、タブレット、ホワイトボード等を活用したりして、考えを深め、学び合う学習集団づくりに努める。 ・ICTを活用して情報を収集したり、考えを共有したりできるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。また、自分の興味・関心のあることについて、自主学習する児童が増えてきた。 ●課題解決や苦手を克服するために、自らの学びを振り返ったり、学習計画を立て見直しをもって取り組んだりすることに課題がある。また、粘り強く活動することが難しい児童もいる。	・自らの課題を発見し、解決するための計画を立て、粘り強く取り組むことができる。 ・自らの学びを振り返り改善しながら進め、自分をより高めたいという意欲を高めたり、学ぶ楽しさを感じたりする。	・主体的な学びとなるよう、単元のはじめに共に課題を設定し、計画を立て、学習の筋道を理解させる。また、振り返りの視点を示し、自身の学び方について振り返る時間を確保する。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させたり、読書の習慣化を図ったりする。また、自主勉強ノートの活用をする。 ・ICTを効果的に活用し、学習に対する興味・関心を高める。 ・個別最適な学びと協働的な学びをバランスよく取り入れた授業を展開する。			